【成田】

C5チーム「ひろし」のチーム開発演習成果発表を行います。★

前半部分では「私達が開発アプリしたアプリについて」、後半では「私達のチームとしての成長や成果について」をそれぞれ説明いたします。★

# 1.**父親のための育児アプリ「IKUMI」開発のきっかけ【遠藤】(**1.5**min)**

まずは、開発のきっかけについてお話します。

チーム開発演習のテーマは「社会人が、ほぼ毎日利用することで、幸せになる、便利になるWebアプリ」でした。

このテーマを受け、「チームメンバーの興味分野」と「現代社会における課題解決」の二点が重なり合った**「男性の育児参加をサポートするアプリ」**を開発する方向で進んでいきました。

現代社会には、男女間でキャリア形成と育児の両立にギャップがあるという問題があります。

厚生労働省の調査によると、女性の育児休暇取得率は80％を超えていますが、男性の育児休業取得率は17％にとどまっています。

さらに、男女の育児休暇取得期間にも差があります。女性の育児休暇取得期間は90％以上が6か月以上となっている一方、男性の育児休暇取得期間は50％以上が2週間未満となっています。

このデータから、男女の育児参加には大きな差があることがわかります。

しかし、男性も育児に参加したいと思いつつ、前例となる人がいなかったり、手探り状態であるだろうと私たちは予想し、そんな新米パパ達をサポートしたい、という想いからアプリ開発をスタートしました。

# 2.**アプリ研究を通しての現状分析。「男性の育児参加をサポートするアプリ」というが具体的にアプリを用いて”サポートする”とは？【**稲川**】(2min)**

開発したいという想いを持ったは良いものの、育児をしたこともない私達は「育児」も「育児アプリ」も分かりません。そこでまずは以下に記載してある既存の育児アプリ6つを分析することにしました。

実際にアプリをダウンロードして機能を体験したり、AppleStoreなどで評価を確認したりすることで以下の分析結果が得られました。

まず大きな発見として、6つのうち5つが「ママ向け」の情報にあふれた、実用性を加味したアプリであったということです。

ママ向けのアプリでは、赤ちゃんの排泄・食事の記録をとることができる育児日記が必須機能となっていました。他にもママ友とのチャットや電話で相談できる機能やコラムも多く、母親が自身の不安や悩み、愚痴も吐き出せる場も存在していました。

一方で、唯一のパパ向けアプリ「パパninaru」は現代の男性の悩みに沿った機能を搭載しており、評価も大変高いもので、「育児休暇によって変動する給料」や「ママがパパにサポートして欲しいこと」などがまとめられたコラムが印象的でした。

この分析を踏まえ、私達は

* パパとママのアプリで内容がだいぶ異なっていること　と
* ママのアプリでは一番重要と捉えられている「育児記録」の機能が、パパ向けアプリには搭載されていないこと

以上の２点から、「父親はあくまで”サポート”という認識」が根強く残っているという事実に育児問題の根幹を感じました。

私達は「父親はあくまで”サポート”」という認識を打ち砕き、父親が能動的に育児に参加できる状況を生むために育児アプリ「IKUMI」を開発しました。

# 

# 3.**分析から発見した課題を解決する私たちのこだわりアプリ「IKUMI」**【小野】**(**2**min)**

私たちは、コンセプトである「育児マスターへの道」から文字をとってアプリ名を「IKUMI」と決定しました。

更に、新米パパ達に育児マスターの人物像を定着させるため、「現代のポジティブなパパ」を具現化したアプリキャラクター「いくみさん」を作成しました。

「いくみさん」は、アプリ内では利用者を導く先輩パパというポジションで、穏やかな雰囲気の40代男性をイメージしております。

いくみさんのイメージについては、他にもかっこよくて誰もが憧れるダンディーな50代ぐらいの男性から、ともに育児マスターを目指す20代の男性という案もありましたが、

最終的に、穏やかな雰囲気を持つ育児のプロが1番頼りになり、新米パパたちの精神的な支えとなる存在としても適していると考え、現在のいくみさんに決まりました。

【配色について】

「いくみ」には、ライトグリーンをベースに、強調したい場所に黄色のカラーをメインに用いています。

外部設計の段階では、グループメンバーに向け、４つのデザイン案を用意し、投票によって男性陣の意見を考慮しながらベストな色合いを選出しました。

今回グループで開発した「いくみ」は毎日使ってほしいアプリなので、心を落ち着かせる効果のある緑をメインとし、母の日にカーネーション、父の日には黄色いバラが贈られるように、父の日のイメージカラーである黄色は、日本では幸福や喜びの象徴、世界でも「命を守る色」、「信頼や尊敬」を表す色として、大切にされている色でもあります。

このような想いから配色にこだわりました。

# **4. 具体的な機能の説明（デモンストレーション） with あるペルソナパパの場合**【川原＆成田】(min)

では、以上で説明した私達の想いから生まれたアプリのメインとなる機能を、ある新米パパの例を交えながら説明いたします。

## いくみのチュートリアルが始まる

川原亮介（30）。妻が産休を終え、これから3か月の育休をとろうとしている...。

（スマホをいじりながら）

川原：

(ゆっくり)これからは日中、子供の面倒を俺がするのかぁ...。子供と一緒にいられるのは嬉しいけど、育児って何から手をつけたらいいかわかんないんだよなあ...。

ん？なんだこのアプリ？「育児をする　パパのためのアプリ」...。気になるな、、これダウンロードしてみるか！

（ダウンロード。IKUMIが起動し、いくみさんが画面に現れる。）

いくみ：

IKUMIへようこそ！初めまして、いくみと申します。第一子を持つお父さんをサポートいたします。

川原：（びっくり）あ...、は、初めまして川原です...。

いくみ：初めまして、川原さん。IKUMIをダウンロードしてくれたということは、育児に関して何か悩みがあるのですね？

川原：

（困惑しつつも）あ、はい...。

（困惑から普段の状態に戻って）そうなんですよ。

これから育休を取って育児をしようっていうのに、何から手をつけたらいいのか全く分からなくて...。

いくみ：

心中お察しいたします...。まず何をすべきかなんて分からなくて当たり前ですよ。

しかし、そうですね...まずはこちらの機能を使って、基礎知識のインプットから始めるのはいかがですか？

（ハンドブック機能を起動させる）

川原：なるほど、基礎知識はたしかに必要ですよね。

（ハンドブック起動完了+少し動かした後）

川原：わぁ、すごいまとまっていますね！

いくみ：そうなんです。ここには本当に必要かつ信頼性の高い基礎知識をまとめています。

今のインターネット社会で「本当に必要な知識」を選び取っていくのは大変ですし、時間もかかりますからね。

川原：確かに...。大量の情報から取捨選択するのって結構時間かかっちゃうんだよな...。

いくみ：

更に更に！このハンドブックには「クイズ機能」もついているんです。

ハンドブックで学んだ知識が確実に自身に定着しているかを短い時間で確認できちゃいます。

そしてそのクイズでとった点数によって称号ももらえるんです！

川原：称号ですか...。僕ゲーム大好きなので、なんか燃えちゃいますね...！

—----------------------------------------------------------------------------------------------------

【相談所】

川原：でも「赤ちゃんの泣き止ませ方」とかも知りたいんですけどハンドブックにないんですよ。

いくみ：そうですよね、そんな時は相談所機能を使うといいかもしれません。

川原：相談所？？　相談って誰に相談するんですか

（相談所のトップを見せる）

いくみ：一種の掲示板ですね。他のパパに悩みなどを相談することができるんです。

川原：へ～～～！

（画面操作しながら質問事項を入力）

いくみ：では早速、「子供の泣き止ませ方」を先輩パパさんに質問してみましょうか。

ちょっと返信がくるかまちましょうか。

（入力して、しばらく待つ演出を入れる）

川原：返信来ましたかね。

いくみ：みてみましょうか。あ、藤本さんと稲川さんという方達から返信がきていますね。

川原：これは便利ですね！しかも自分と同じような境遇のパパに相談できるのは、分からなくて悩んでいるのは「自分だけじゃない」って思えるから、なんか嬉しいですね。

僕もいずれ　他のパパに助言できるように頑張ります！

いくみ：良い心がけですね、さすが川原さんです。

—--------------------------------------------------------------------------------------------------------

【記録書】

川原：

知識もパパ同士の情報共有も完璧、でも1つ問題があって...。

以前にも僕が子供の面倒を何度かみていたんですけど、妻から何回も「大丈夫？」って連絡があって...。僕が「心配しなくて大丈夫」って言ってもどうしても不安みたいで...。

いくみ：なるほど、奥様に「安心していいよ」と伝えたい、ということでしょうか？

川原：そうなんです。でも何回言っても伝わらなくて…。

いくみ：

そうですね、きっと言葉だけでは奥様の不安は取り除けないと思います。そんな時は「しっかり育児をしている」と誰の目から見ても分かる”証拠”を提出すると良いですよ。

川原：証拠...？と言うと...？

いくみ：この記録書機能があれば、お子さんの基本的な情報を簡単にアップデートでき、初めての記念日や今日あったことなんかもパートナーにシェアできるんです。

川原：へ～～～！そんなことまでできるんですか！

いくみ：記録する項目は、以下の6つになります。こんな感じです！

(・子どもの名前（初回のみ登録）

・写真（初回のみ必須）

・食べたもの（朝・昼・夜）（記述式）

・排泄（選択式 問題あり・なし）

・体温（記述式）

・自由欄)

川原：沢山の項目があるんですね...！でも、そもそもこんなに沢山の項目を記録する必要ってあるんですか？

いくみ：

記録をとっておくことは実はとても大事なんです。赤ちゃんの記録をしておくことでいち早く異常に気づくことができ、病院にかかった時には子供の状況を把握してもらいやすいんです。

川原：なるほど...。ちょっとめんどくさそう...　とか思っちゃっていました。

いくみ：だめだめですね。まあ、毎日記録をつけるって大変に感じるかもしれません。しかし記録をとって、それを奥様にシェアするだけで、お子さんの健康を維持できて、かつ奥様の不安感を取り除けるなら簡単なことかもしれませんよ。

川原：確かに。(ゆっくり)僕も妻に頼ってもらいたいし、いくみさんと一緒なら、なんだか頑張っていけそうです！

いくみ：嬉しいことを言ってくれますね。では川原さんが奥さんと「共に」育児ができるよう、サポートは任せてください。これからどうぞよろしくお願いいたします。

（いくみスマホに消えていく）

## ＜　Fin　＞

いかがでしょう？これがIKUMIの力です。

私達はいつだって、子供たちの未来を支えるパパとママの味方です。

# 

# 5. チームとしての成果【藤本】(1分50~2分)

ではあと少し、「第二部：私達のチームとしての成長や成果について」お付き合い願います。

私達はチームとして、①既存の役割に囚われない②成果をたたえ合う、③特性が異なるメンバーからそれぞれ学びを得ることができました。

まず、①の「既存の役割に囚われない」という点に関して、私達はチームで動いていくに当たり、PLUS DOJOから与えられた役割の定義を自身たちの中で変容させていきました。リーダーや品質管理といった名前は配布されますが、これはあくまで基盤であるととらえ、チームとしてバランスと特性を活かせるように役割を調整していました。

例）定型リーダー → 「全体マネジメントをしながら講師との架け橋になる役割」

　　C5リーダー →「最終的な調整と仕上げを担当する、最終決定権を持つ役割」

チームとして重要な要素だった②の「成果をたたえ合う」です。プログラミングのフェーズに入ってからは特に意識して「今日の成果発表」の場を設けていました。チームとして動いているからこそ、誰かと共に喜びを分かち合える環境はとても意味のあるものになったと思います。

最後に③の特性が異なるメンバーそれぞれから学びを得るについて

成田からは　こだわりを

小野からは　情報の重要性を

遠藤からは　諦めない心を

藤本からは　制作への熱意を

川原からは　柔軟性を

稲川からは　広く穏やかな心を それぞれみんなで学び合いました。

# 

そんなメンバー達の成果と成長を更に詳しくみていきましょう。

# 6. 各個人（１人1分スピーチ）

**稲ちゃん(1分)**

目標:Javaの理解を深めること

成果:ホーム画面のポップアップ表示

課題:Javaと基本情報技術者試験の勉強を両立する

**遠藤ちゃん（１分）**

（私は5月末の段階では研修内容をあまり理解できていない状況だったので、6月の研修ではできるだけ多くのプログラムを書いてjava等の理解を進めたいと考えていました。）

DB担当の遠藤です。「IKUMI」では記録書の機能を担当しました。

今回の研修で最も大変だったのは時間ごとに登録されたデータを表示させる機能です。ここではdaoのコレクション部分で苦戦しました。5月に制作した名刺管理アプリのコレクションに比べて複雑なものだったため、daoとmodelの作成に2日かかってしまいました。

しかし、そのおかげでjava等の理解を進めることができました。

今回の研修で学んだことはあきらめないで取り組み続けることの大切さです。今回は分からないことに対して、諦めずに何度も東講師に質問をしました。その結果課題を解決することができ、自分の学習にもつながりました。

なので、今後も難しくてわからないこともあきらめずに取り組み続けたいと思います。

**小野（１分）**

苦労した点と自分の成長について

・一度グループで自分だけメンバーの共有ファイルが反映されなかった

・自分が共有した際のエラー表示で、エラーの意味がまったくわからずパニック

・以前の自分と比べて、少し相手を意識した質問ができるようになった

**かわち(45秒)**

どんなコミュニティでも生き残れる柔軟性を持っている

「機能」担当の、サインポスト株式会社　川原

ikumiを開発していく際の

成果：ハンドブック内のクイズ機能を完成させたこと

その過程で

成長：インプットした知識を応用する力がついた

具体的：先月作成した名刺管理アプリを活用→見た目が全くなるクイズ機能の導入することが出来

この応用力を配属後にも活かして

また：伸ばしていきたい

**えみるん（1min）**

全てを管理したい、こだわり強めの私の成果と成長をお話いたします。

「5月からこだわり続けた画像格納」が私のもっとも大きな成果です。

当初は①画像をアップロードして②データベースに入れ込み、③表示させるという3ステップをどう乗り越えようか、という気持ちでスタート。しかし実際は30ステップくらい存在しており、完成させた時は「やっと私の念願が叶ったんだ…」という気持ち。

また、特に成長を感じた点として、「品質管理としてのマネジメント能力」があります。

初めての「1ヶ月丸々チームとして開発する」という経験の中で、

* メンバーそれぞれの特性や能力値に合わせてタスクを割り振ることの大変さ
* タスクが偏ったり手が空いてしまった時用のミニタスクの準備
* そして状況を意識しながらも全体が最終的に終われるように調整できる柔軟性

この全ての重要性を学んだ。

**藤本くん　30秒**

制作への熱意を

チームリーダーの藤本からチームリーダーとして思ったことを話したいと思います。

私は正直IKUMIを完成できると思っていませんでした。

理由としては、

チーム一人一人のアイディアのレベルが高く、私自身プログラムを組めるか不安だったことと

基本的にオンライン上での開発だっため、コミュニケーションエラーで起こる認識の違いがとても不安でした。

ですが、こうしてしっかり形のあるアプリを作れたのはチームのおかげです。

チームの人にはとても感謝しています。

以上、「第二部：私達のチームとしての成長や成果について」でした。

# 7. 最後に

何度もつまずき、思い通りにならない中でいつも助けてくれた東講師、メンバー達。

こんなにも貴重な機会を与えてくださった研修会社様、並びに私達の本社の皆様。

本当にありがとうございました！！！！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

# 

# 今後の課題（アップデート予定）

実装したかったけどできなかったもの等々あれば追加してね

・第2子以降の対応

・称号